

## 気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!! ~「R6 JAなのはな米品質向上運動」実施中~

- 高温登熟を回避するため、「コシヒカリ」の田植えは、**5月15日を中心**に行いましょう。
- 4月下旬以降は、気温の高い日が多くなります。**育苗ハウスは換気を徹底**し、がっちり苗に仕上げましょう。
- 基肥は、土壌条件に応じた施肥量となるよう調整し、必ず落下量を確認して施用**しましょう。
- 近年は、気温の上昇に伴い雑草の発生が早くなっています。**除草剤は遅れず適期に散布**しましょう。

### 1 硬化期の育苗管理

- ・日中の育苗ハウス内の温度が**25℃以下**になるよう、**換気を徹底**しましょう。
- ・**かん水は、床土の乾きに応じて、的確**に行いましょう。(育苗培土の種類により乾き具合が異なるので注意!)
- ・**田植えの7~10日前からは夜間もハウスを開け**、外気にならしめましょう。

【育苗期間中の温度管理の目安】

ステージ	出芽期	緑化期	硬化期
育苗日数	3日	2~3日	13~15日
温度	昼	30℃	25℃以下
	夜	30℃	10℃以上

天気予報が晴れなら  
**早朝から換気!**



健苗育成及び病害リスクの低減のため、  
換気により温度管理を徹底しましょう

### 2 本田準備

- ・田面に高低差があると、①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えない、等の問題が生じます。**耕起・代かきは丁寧に行い、ほ場の均平に努め**ましょう。
- ・耕起は過湿状態で行うとトラクタが沈み、耕深が均一になりにくいいため、できるだけほ場が乾いた状態で行いましょう。
- ・ヒエ等の雑草の発生を抑えるため、**代かきは田植予定日の3~5日前に実施**しましょう。
- ・代かきは少なめの水で行い、稲わら等の埋没に努めましょう。また**代かき後の濁り水は、用水に流さない**ようにしましょう。

### 3 基肥量の調整

★田植前に**必ず基肥量を調整**しましょう。

- ・**品種やほ場条件に応じた基肥量になるよう適切な施肥設計**を行いましょう。
- ・田植作業前には必ず田植機の点検・清掃や調節を行いましょう。特に、前年、基肥一発肥料が余った(注文数量より使用量が少ない)場合は、**田植機の施肥部分の開度を**確認し、基準量が確実に施用されるように調節しましょう。
- ・田植作業の最初の田では、肥料使用量と田面積から施肥量を算出し、**基準どおりの施肥量が**確認しましょう。

【基肥設計例 (品種:コシヒカリ、10a当たり)】

土質	肥効調節型基肥	分施					
	側条施肥	側条施肥		全層施肥			
	基肥一発肥料	設計 I	設計 II	設計 I		設計 II	
		なのはな有機基肥	基肥555	なのはな有機基肥		基肥555	
				基肥	早期追肥 (田植後7日)	基肥	早期追肥 (田植後7日)
砂質田	Jコートコシヒカリ1号 40kg	35kg	30kg	30kg	10kg	25kg	10kg
壤質田	Jコートコシヒカリ2号 35kg	30kg	25kg	25kg	10kg	20kg	10kg
粘質田	Jコートコシヒカリ2号 30kg	25kg	20kg	20kg	10kg	15kg	10kg

※土壌改良資材を必ず施用しましょう。大豆跡田は、基肥量を5~7割減らす、または倒伏に強い品種の作付けに努めましょう。

### 4 苗箱施薬による病害虫防除

★苗箱施薬は**規定量を確実に**入れましょう。

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病害虫	使用回数
ブーンレパード箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	いもち病、 <b>紋枯病</b> 、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イネツトムシ(白葉枯病 ※移植当日のみ)	1回
<b>新</b> スタウトアレス モンガレス粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	いもち病、白葉枯病、 <b>紋枯病</b> 、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、 <b>ニカメイチュウ</b> 、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	1回

- ・水稻育苗後にハウス内で野菜等の栽培を行う場合、苗箱施薬剤は必ず育苗ハウスの外で散布してください(ポジティブリスト対応)。
- ・高密度に播種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて薬剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50~100gまでの範囲で調整してください(施薬時期:播種時(覆土前)~移植当日)。

★春の農作業安全確認運動実施中 (3/1 ~ 5/31) 「学ぼう!正しい安全知識」

裏面へ続く

## 5 田植えと水管理

- ・コシヒカリの田植えは、5月15日を中心としましょう。
- ・栽植密度は70株/坪・植付本数は3～4本/株、植付深さは3cm程度の浅植え（第1葉がみえる程度）を励行しましょう。
- ・栽植密度をしっかりと確保することにより穂数の確保につながり、昨年のような高温年でも安定して品質と収量が確保できます。
- ・田植え直後は、水深5cm程度のやや深水とし、苗を保護しましょう。
- ・活着後は、水深2～3cm程度の浅水とし、早朝入水・昼間止水で田水温が高くなるように努め、初期分けつの発生を促しましょう。

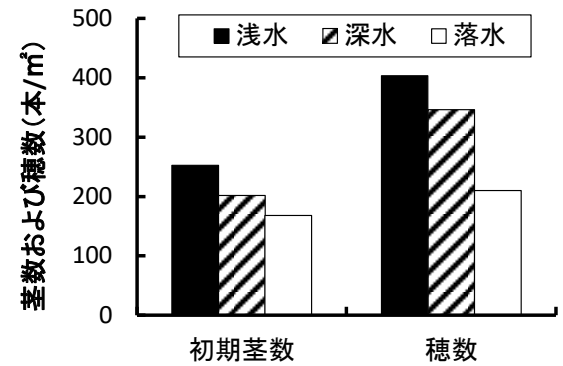
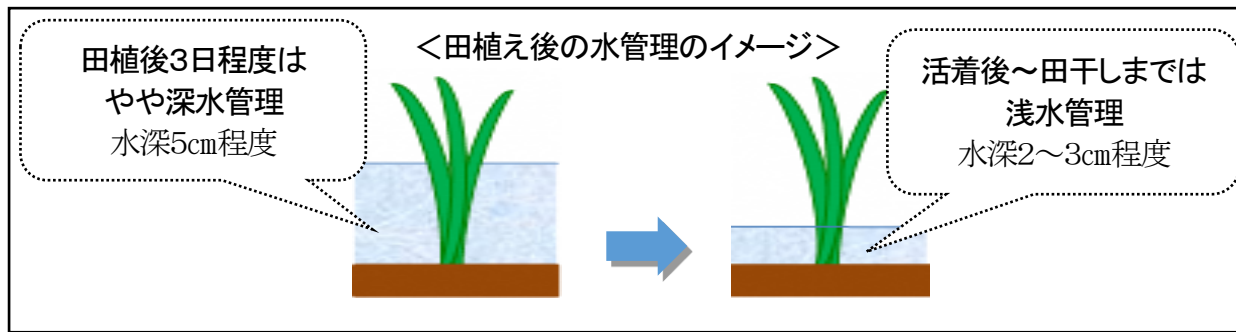
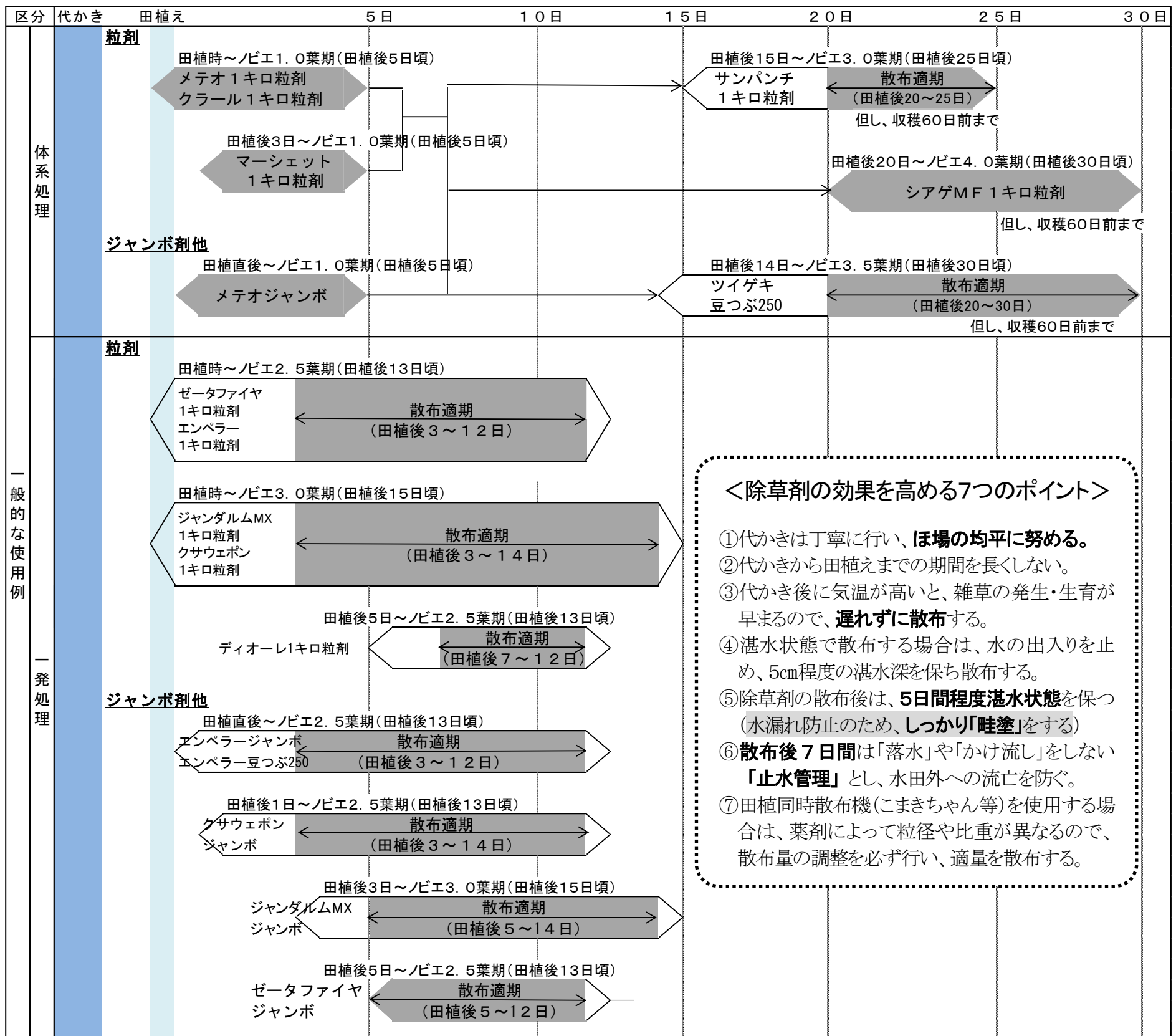


図 初期の水管理が初期茎数および穂数に及ぼす影響 (H24 農研) 注) 初期茎数：移植後20日目の茎数

## 6 除草剤の散布

- ・除草剤の散布は遅れずに、適期に行いましょう。また、強風時の散布は避けましょう。

■ 雑草防除体系 ～ 農薬は使用基準を守り、正しく使いましょう！ ～



★なのはな農協では、皆様に電子メールによる営農情報の提供を行っています★

＜情報提供内容＞

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報や災害防止対策
- ・緊急的な栽培管理情報
- ・その他必要と思われる情報

営農情報提供サービスの登録はこちらから  
スマホ等で右のコードを読み込み、  
必要な情報を登録してください

[http://argo-navi.net/ja/mb\\_login.php](http://argo-navi.net/ja/mb_login.php)



※農耕車等で道路を走行後、  
泥落ちした場合は、泥の  
撤去をお願いいたします。